神奈川・大和に物流拠点

自社最大規模 来秋竣工

ダイワコーポ

ダイワコーポレーション（曽根和光社長、東京都品川区）は2019年10月、神奈川県大和市に内陸型物流拠点、横浜町田営業所を開設する。延べ床面積9万4700平方㍍と同社では最大規模となる。

日本生命保険が開発する「ニッセイロジスティクスセンター横浜町田」を1棟借りし、サブリースするとともに、一部を自社倉庫として使用する予定。

東急田園都市線と小田急江の島線の中央林間駅から徒歩13分と、通勤に便利な好立地。東名高速道路・横浜町田インターチェンジからも4㌔とアクセスに恵まれている。

敷地面積は4万1200平方㍍、ダブルランプウェーを備える地上5階建てで、乗用車125台分の駐車場とトラック35台分の待機スペースも持つ。

中央車路型構造で、1～4の各階に10㌧車が接車可能な18台分のトラックバースを設置。4、5階をつなぐ荷物用エレベーター、垂直搬送機も備える。

倉庫部分は柱スパン11㍍、有効天井高5・5㍍を確保。床耐荷重は1階で1平方㍍当たり2㌧、2～5階が1・5㌧とし、冷蔵エリア設置や重量物取り扱いにも対応する。

トラックバースは奥行き13㍍と広く、各区画ごとにテールゲートリフター車対応箇所とドックレベラー対応箇所も用意。多様な使い方ができる。

最新マテハン機器やロボットの導入を見据えて予備電力を確保するとともに、非常用発電機や建物安全度判定サポートシステムにより、大規模災害発生時に備える。

神奈川県内から東京都西部の主要消費地を1時間程度でカバー。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）などの利用で、東日本広域への配送も行える。また、周辺は住宅地が多く、労働力も確保しやすい。

ダイワコーポによると、既に複数の引き合いが来ており、来春をメドにテナントを固めたい考え。一部は自社での使用を計画しているが、テナントの要望を優先して柔軟に対応する。

曽根社長は「この15年近くの間、サブリースを含めて物流施設の貸借を続け、営業力やノウハウを蓄積してきた。内陸の大型施設にチャレンジすることで、更なる営業力強化や人材育成にもつながる」としている。

（吉田英行）

ニッセイロジスティクスセンター横浜町田を1棟借り（完成予想図）

衛生管理書作成の手引

全会員に年明け送付

日冷倉協

日本冷蔵倉庫協会（大谷邦夫会長）は1月中に、食品衛生法改正に伴う衛生管理計画書作成の手引書を全会員に送付する。同手引書は輸出促進を見据えた食品衛生管理の強化などを目的

リンピックの開催や食品の

にあり、繁華街の喧騒から離れた閑静な場所に立地。有名イタリア料理店「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」と隣接している。築50年の建物を生かしたギャラリーは、外観がレトロな味わいを醸し出しており、周辺の

幅広い

と、これまで幅広い要請に応えている。

早くもリピーターが見込まれるほどの評判を呼んでいる理由は、半世紀前の建造物を土台にシックな茶系統の色を配した外装によるところが大きい。内装も昭

た雰囲気を演出し、天井にはむき出しの配管を意図的に残した。

床面積46平方㍍、壁面長27・6平方㍍。料金は1週間で20万円に設定しているが、学生らには相談に応じる。2019年12月期は学